

F★★★★

ホルムアルデヒド登録認定商品

スタジオ Horizont 専用エマルジョン塗料

KANPE SW20

カンペSW20

スタジオ Horizont やプロジェクター投影用壁面の仕上げ用
コンクリート・モルタル・ボード・ベニヤ板・バンズ用布地などに



関西ペイント

KANPE SW20

撮影の様
「カンペS

撮影に適した白色度・完全艶消し

- スタジオ専用の白色塗料です。
- 完全ツヤ消しで底ツヤもなく撮影時のヌケが良好です。

作業性が良く仕上がりも美しい

- ローラー塗り作業性にすぐれ、ローラー目が少なく、肌ざわりの美しい均一な塗面が得られます。(ハケ塗りも可能)
- コミがよく、塗料の伸びがすぐれています。

メンテナンス性が良好

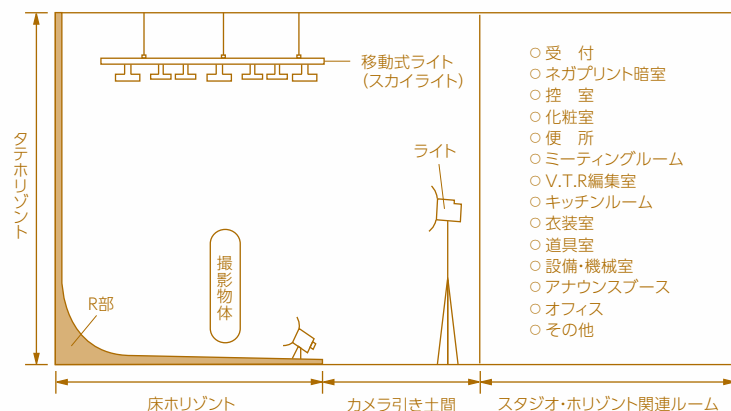
- 付着性がよく、耐水性・耐洗浄性もすぐれています。
- 塗り重ねによって厚膜になった場合でも、従来品に比べてフレにくい特性をもっています。

様々なライティングや演出効果を「W20」が最大限にサポートする

推奨用途	スタジオ Horizont の仕上げ用 プロジェクター 投影用 壁面の仕上げ用 コンクリート・モルタル・ボード・ベニヤ板・バンズ用布地などに
------	--

品名・容量	品名	容量
	カンペSW20	20kg
	エコカチオンシーラー	15kg

■ スタジオ Horizont の構成図



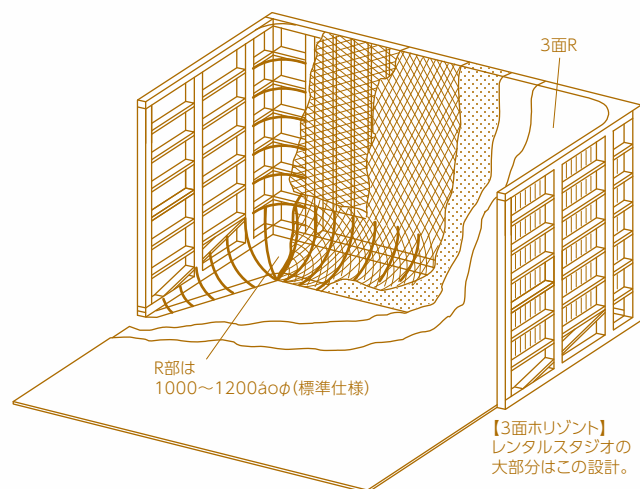
照明を当てて、空間の感じを出し、遠近感を無くするという用法で、白地で塗装された床から壁にかけての総称であり、その表面は平滑で継ぎ目や目違い、塗装の色ムラがなく、光に対する反射率の高いものをいいます。

バックの壁の部分なたてホリ、床の部分を床ホリ(土間)と称しています。

■ Horizont の種類

写真スタジオにおける Horizont の壁は、基本的には正面に R部 を設けた一面 Horizont がありますが、スタジオの引き幅のバランス(ワイルドレンズの使用)から、正面片サイドに R部 を設けた二面 Horizont、また、正面と両サイドに R部 を設けた三面 Horizont があり、これらは最も代表的な Horizont として知られています。

さらに、特殊な Horizont としては、車両専用といえる正面と後方両サイドに R部 を設け、天井にも R部 を付けた、多面なドーム型 Horizont などがあります。



標準塗装仕様

1. 天井・縦ホリ部 (壁面)

工程	塗料名・処置	塗装回数	標準所要量 (O/K/回)	塗装間隔 (23℃)	塗装方法	希釈率 (%)
1 素地調整	新設の場合 — ゴミ、汚れを除去し清浄な面にしてください。素地面の水分8%以下、pH10以下になるまで養生管理してください。 塗替の場合 — 旧塗膜を完全に除去し、清浄な面にしてください。コンクリート・モルタル面にワレがある場合は、充填剤で処理します。					
2 下 塗	エコカチオンシーラー	1	0.13	2時間以上～7日以内	ハケ ローラー	0
3 総 パ テ (1回目)	中付用エマルジョンパテ (中央ペイント「ブレンドパテ」など)	1	使用するパテの説明書等を参照してください。			
4 研 磨	P180サンドペーパー空研ぎ					
5 総 パ テ (2回目)	仕上用エマルジョンパテ (中央ペイント「WDパテライト」など)	1	使用するパテの説明書等を参照してください。			
6 研 磨	P180サンドペーパー空研ぎ					
7 中 塗	エコカチオンシーラー	1	0.13	2時間以上～7日以内	ハケ ローラー	0
8 上 塗	カンペSW20 上 水	2～3	0.13	2時間以上～7日以内	ハケ ローラー	5～10

※素地の影響により工程3、4の繰り返し作業が生じることもあります。

2. R、土間部

工程	塗料名・処置	塗装回数	標準所要量 (O/K/回)	塗装間隔 (23℃)	塗装方法	希釈率 (%)
1 素地調整	新設の場合 — ゴミ、汚れを除去し清浄な面にしてください。素地面の水分8%以下、pH10以下になるまで養生管理してください。 塗替の場合 — 旧塗膜を完全に除去し、清浄な面にしてください。コンクリート・モルタル面にワレがある場合は、充填剤で処理します。					
2 下 塗	マルチタイルコンクリートプライマー-EPO (ベース/硬化剤=4/1)	1	0.14	16時間以上～7日以内	ハケ ローラー	0～10
3 総 パ テ (1回目)	中付用エマルジョンパテ (中央ペイント「ブレンドパテ」など)	1～2	使用するパテの説明書等を参照してください。 車両等重量物撮影用スタジオにはエポキシ系パテを使用してください。			
4 研 磨	P100サンドペーパー空研ぎ					
5 総 パ テ (2回目)	中付用エマルジョンパテ (中央ペイント「ブレンドパテ」など)	1	使用するパテの説明書等を参照してください。			
6 研 磨	P180サンドペーパー空研ぎ					
7 総 パ テ (3回目)	仕上用エマルジョンパテ (中央ペイント「WDパテライト」など)	1	使用するパテの説明書等を参照してください。			
8 研 磨	P180サンドペーパー空研ぎ					
9 中 塗	エコカチオンシーラー	1	0.13	2時間以上～7日以内	ハケ ローラー	0
10 上 塗	カンペSW20 上 水	2～3	0.13	2時間以上～7日以内	ハケ ローラー	5～10

※所要量は、素地により多少差異を生じることがあります。

施工上の注意事項

- ① 上塗り塗装時に水を入れすぎると隠蔽が悪くなり、乾燥時間も遅くなる場合がありますので、規定量以内の希釈でご使用ください。
- ② 塗り重ねる場合は、前の塗料が完全に乾燥してから塗装してください。乾燥が不十分な上に塗り重ねると、塗膜がワレたり、乾燥不良を生じることがあります。
- ③ 開缶後よくかき混ぜて、中身を均一にしてください。
- ④ 性能を発揮する塗膜を形成するのに必要な最低造膜温度があり、5℃以下での使用は避けてください。
- ⑤ モルタルやコンクリートなどのアルカリ質素材 (特に新設時) は、水分8%以下、pH10以下になるまで、十分に乾燥させてください。乾燥が不十分な場合、アルカリムラを生じたり、正常な塗膜を形成せず、ハガレの原因にもなります。
- ⑥ 夜間などは気温の低下によって結露し、塗面にシミがついたり、塗膜をタシさせたりすることがありますので、冬期や雨天の塗装には特にご注意ください。
- ⑦ 高温 (40℃以上) および低温 (-5℃) 以下での保存は避けてください。
- ⑧ 塗装用具は、使用後ただちに水洗いしてください。

ご使用上の注意事項

- 下記の注意事項を守ってください。詳細な内容については安全データシート(SDS)をご参照ください。
- 取り扱い作業中・乾燥中ともに換気のよい場所で使用し、粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。必要な保護具(帽子・保護メガネ・マスク・手袋等)を着用し、身体に付着しないようにすること。
- 吸入に関する危険有害性情報の表示がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は、送気マスクを着用すること。又、取り扱い作業場所には局所排気装置を設けること。
- 皮膚接触に関する危険有害性情報の表示がある場合、頭巾・スリ巻きタオル・長袖の作業着・前掛けを着用すること。
- 火気避けること。静電気放電に対する予防処置を講ずること。
- 火災を発生しない工具・防爆型の電気機器・換気装置・照明機器等を使用すること。
- 裸火又は高温の白熱体に噴霧しないこと。
- 本来の目的以外に使用しないこと。
- 指定材料以外のものとは混合(多液品の混合・希釈等)しないこと。
- 缶の取っ手を持って振り回し、取っ手をロープやフックで吊り下げたりしないこと。
- 取り扱い後は、洗顔、手洗い、うがい、及び、鼻孔洗浄を十分行うこと。
- 使用済みの容器は、火気、溶接、加熱を避けること。
- 本品の付いた布類や本品のかす等は水に浸して処分すること。
- 目に入った場合：直ちに、多量の水で洗うとともに医師の診察を受けること。
- 皮膚に付着した場合：直ちに拭き取り、石けん水で洗い落とし、痛みや外傷等がある場合は、医師の診察を受けること。
- 吸入した場合：空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けること。
- 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。
- 漏出時や飛散した場合は、砂、布類(ウエス)等で吸い取り、拭き取ること。
- 火災時には、炭酸ガス、泡、又は、粉末消火器を用いること。
- 指定容器を使用し、完全にふたをして湿気のない場所に保管すること。直射日光、雨ざらしを避け、貯蔵条件に基づき保管すること。子供の手の届かない場所に保管すること。又、関連法規に基づき適正に管理すること。
- 廃棄：本品の付いた布類や本品のかす、及び、使用済み容器を廃棄するときは、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処分すること。(排水路、河川、下水、及び、土壌等の環境を汚染する場所へ廃棄しないこと。)
- 施工後の安全：本製品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引渡しの場合は、施工者に対して安全性に十分に注意を払うように指導してください。
- 例えば、不特定多数の方が利用される施設などの場合は、立看板などでベンキ塗り立てである旨を表示し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接することのないようにしてください。

関西ペイント販売株式会社  関西ペイントホームページ www.kansai.co.jp

北海道 TEL (0133) 64-2424 FAX (0133) 64-5757 東京 TEL (03) 5711-8905 FAX (03) 5711-8935 中国 TEL (082) 262-7101 FAX (082) 264-3285
 東北 TEL (022) 287-2721 FAX (022) 288-7073 中部 TEL (052) 262-0921 FAX (052) 262-0981 四国 TEL (0877) 24-5484 FAX (0877) 24-4950
 北関東圏 TEL (028) 637-8200 FAX (028) 637-8223 大阪 TEL (06) 6203-5701 FAX (06) 6203-5603 九州 TEL (092) 411-9901 FAX (092) 441-3339

※製品改良のため仕様は予告なしに変更することもございますのでご了承ください。

(17年07月01日PPO) カタログNo.601